

研究のためカルテの情報を使用させて頂いています

◎対象となる患者さん: B 型慢性肝炎で核酸アナログ製剤を内服している方

1、研究の題名 『B 型慢性肝炎における核酸アナログ投与例での発癌予測マーカーの探索』

研究期間： 2021 年 12 月 20 日 ～ 2026 年 12 月 31 日

2、研究の目的

B 型肝炎ウイルスは慢性肝炎と肝硬変を引き起こし、肝細胞癌発癌の主要な原因となります。

未治療では、年間の肝細胞癌発生率は、非肝硬変患者で 0.3-0.6%、代償性肝硬変患者で 2.2-3.7%と報告されています。

現在、B 型慢性肝炎に対して、抗ウイルス剤である核酸アナログ製剤(ラミブジン、アデフォビル、エンテカビル、テノホビルジソプロキシルフマル酸塩、テノホビルアラフェナミド)を投与することで、ほぼすべての患者で B 型肝炎ウイルスは消失し、肝臓の炎症や線維化を改善します。

現在の抗ウイルス剤は、B 型慢性肝炎の肝細胞癌発生のリスクを減少させますが、それでも未だに完全に押さえ込めず、肝癌が発生します。

肝癌発癌を予測するためには、B 型肝炎ウイルスの要素だけでなく、他の発癌に関与する因子を含めた簡便な予測が必要です。

本研究では、過去に飯塚病院で核酸アナログ製剤治療を受けた B 型慢性肝炎患者さんの血液生化学的な項目の他に、糖尿病やアルコール、肥満といった他の発癌に関与する要因も含め解析することで、肝癌発生のリスク因子を解析し、核酸アナログ製剤治療を受けている、もしくは今後受ける B 型慢性肝炎の患者さんの診療に役立てることを目標としています。

3、以下の期間に上記(◎対象となる患者さん)を満たした方が対象です

対象期間： 2001 年 1 月 1 日 ～ 2020 年 12 月 31 日

4、本研究で使用する情報について

本研究に関して[診療記録 / 試料]から以下の情報を取得します。

例) 病名、検査データ(血液検査、心電図等体の機能の検査、胸部レントゲン、その他画像検査も含む))

- ① 年齢
- ② 性別
- ③ 身長
- ④ 体重
- ⑤ 病歴に関する情報(生活歴、既往歴、現病歴)
- ⑥ 血液検査データ
- ⑦ 画像検査データ(腹部超音波画像、CT 画像、MRI 画像)
- ⑧ 肝癌発癌までの日数

5、取得情報の利用範囲

飯塚病院 で使用します。

6、本研究の責任者

この研究の責任者は以下の者です。研究の成果を学会や論文等で発表する際には名前等を番号や記号に置き換え個人が特定できない様に行います。また、この研究にあたり個人情報の漏洩等がないよう取得した情報等を管理し、患者さんに不利益がない様責任を持ちます。

(科名又は部署名) 肝臓内科
(研究責任者名) 本村 健太

7、対象となる患者さんまたはそのご家族等の方へ

この研究にあなたの情報が使用されることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。お申し出頂いても、不利益を被ることは一切ございません。どうぞ、ご安心ください。

また、この研究の計画書を研究に支障のない範囲で閲覧することができます。その場合も下記連絡先までご連絡下さい。

(連絡先)0948-22-3800(代表)
(担当者名) 栗野 哲史